

高市氏 遂に史上初の女性首相へ

平河町通信



令和7年
10月6日

発行
内外政治
研究G
代表 宮田修一

特別号

急ぎ安定的皇位継承策を

自民党総裁選は4日、3度目の挑戦となる高市早苗氏が選出され、15日の臨時国会での首班指名で、初の女性首相が誕生することが確実になりました。それまでに、国民民主を軸として新たな連立の動きも進むとみられます。

大きな問題になりました。しかし、そもそも、多くの党員は、安倍元首相亡き後の自民党が保守の矜持を失って左傾化し、石破政権下でますます加速していくことに強い危機感を抱いていました。高市氏以外の選択肢はありませんでした。全国の志のある人々が、昼夜をたがわず党員



写真はいずれも高市陣営の勝利報告会(東京・千代田区で)

【決選投票の結果】

	高市 早苗	小泉 進次郎
議員票	149票	145票
都道府県票	36票	11票



に電話を掛け、市議や区議、都道府県議の皆さんが、地元の国会議員に支持を呼びかけました。その反応をみれば、朝日が『保守回帰 地方からうねり』と見出しをつけ、読売が『党員票 議員動かす』と書いたのは、当然のことです。

高市新総裁は「働いて、働いて、働いて...働いてまいります」と決意を語っています。疲れ切っているはずの高市氏の身体が心配です。それで

も、外交安全保障や物価高対策、人口減少など多くの難題に立ち向かってもらわなければなりません。

中でも、最大にして喫緊の課題は、男系による安定的な皇位継承策です。高市氏には、覚悟をもって、政府報告書の実現に向けた指導力を発揮してもらう必要があります。これまで、高市氏に期待を持ち続けてきた我々の期待は、まずはそこにあります。